

本資料はアストラゼネカ英国本社が2010年10月28日に発信したプレスリリースを日本語に翻訳し、みなさまのご参考に供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容・解釈については英語が優先します。

AstraZeneca PLC 2010年第3四半期・9ヶ月累計業績

ロンドン発2010年10月28日

第3四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで2%減の78億9,800万ドル

- ・ クレストール、シムビコートおよびセロクエルXRの売上は堅調；CERベースで二桁成長を達成しました。
- ・ 米国以外の市場の売上はCERベースで7%増加し、そのうち新興市場では14%増を達成しました。
- ・ 予想通り、米国の売上は、アリミデックス、パルミコート吸入液およびToprol-XLの後発品の競合および2009年第3四半期の業績に貢献した新型インフルエンザA（H1N1）ワクチンの売上がなかったことによりマイナスの影響を受け、第3四半期CERベースで13%減少しました。

第3四半期中核営業利益はCERベースで10%減の32億3,100万ドル

- ・ 売上の減少は業務効率の向上とその他収入の増加で概ね相殺されました。前年比において当四半期には無形資産の評価減が生じたため、売上総利益が正味2億8,500万ドル減少し、これが主な原因で中核営業利益が減少しました。

第3四半期中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで10%減の1.50ドル

第3四半期の報告ベースのEPSは26%減の1.08ドル

- ・ 事業再構築費用と法務関連引当金が昨年同期比で増加しました。これは、2010年第3四半期に計上された進行中のセロクエルの製造物責任訴訟関連の総額4億7,300万ドルの法務関連引当金が最大の原因です。

9か月累計の株主に対する正味現金配分は、33億6,100万ドルの配当支払いと12億9,700万ドルの正味株式の買い戻しにより、46億ドル5,800万ドルに増加

中核EPSの通年目標を6.50ドル～6.65ドルのレンジに収斂（以前は6.30ドル～6.55ドル）

ファイナンシャルサマリー

グループ	第3四半期 2010 100万ドル	第3四半期 2009 100万ドル	前年 同期比 %	CER %	9ヶ月累計 2010 100万ドル	9ヶ月累計 2009 100万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,898	8,200	-4	-2	24,652	23,859	+3	+2
報告ベース								
営業利益	2,406	3,204	-25	-24	9,083	9,218	-1	-3
税引き前利益	2,258	3,032	-26	-26	8,694	8,643	+1	-2
1株当たり利益	\$1.08	\$1.46	-26	-26	\$4.45	\$4.12	+8	+6
中核*								
営業利益	3,231	3,609	-10	-10	10,738	10,577	+2	-
税引き前利益	3,083	3,437	-10	-10	10,349	10,002	+3	+2
1株当たり利益	\$1.50	\$1.68	-11	10	\$5.32	\$4.90	+9	+7

*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるIFRS(国際財務報告基準)とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2010年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標および中核と報告ベースの財務指標の調整については11ページと12ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「当社は通年の財務目標の達成に向けて着実に進捗しています。第3四半期の顕著な業績は新興市場で二桁の売上増を達成したことです。売上は、西ヨーロッパと米国以外の既成市場でも伸長しました。予想通り、数製品に関する後発品の競合および新型インフルエンザワクチンの売上がなかったことにより米国の第3四半期の業績は厳しいものとなりました。」

第3四半期

第3四半期の売上はCERベースで2%減、実質ベースでは為替変動のマイナスの影響を受けて4%減でした。米国以外の市場における売上は、新興市場の14%増にけん引され7%増でした。西ヨーロッパの売上は3%増でした。米国以外の既成市場の売上は、カナダでの伸長が寄与し5%増でした。予想通り、米国の売上は、アリミデックス、パルミコート吸入液およびToprol-XLの後発品の競合や、2009年第3四半期の業績に貢献したH1N1新型インフルエンザワクチンの売上が当第3四半期になかったことが影響し、CERベースで13%減少しました。

第3四半期中核営業利益は10%減の32億3,100万ドルでした。売上の減少は、主に業務効率の向上とその他収入の増加により概ね相殺されましたが、売上総利益が正味2億8,500万ドル減少し、結果として中核利益率が低下しました。胃・食道逆流症（GERD）の治療薬候補であるlesogaberan（AZD3355）の開発中止に関連する無形資産の1億2,800万ドルの評価減による影響で、中核営業利益は減少しました。これとは対照的に、2009年の第3四半期は、第三者供給契約に関連する問題の解決によって生じた引当金の繰り戻しによる利益が発生しました。

報告ベースの営業利益は中核営業利益よりも大幅に減少し、24%減でした。したがって、中核営業利益の調整は、事業再構築費および法務関連引当金の増加により、前年同期比4億2,000万ドル増でした。現在進行中のセロクエルの製造物責任訴訟に関連する計4億7,300万ドルの法務関連引当金が2010年第3四半期に含まれています。この4億7,300万ドルのうち、2億300万ドルは18,250件以上のクレームの解決にすでに支払われています。残りの2億7,000万ドルは追加準備金であり、未解決かつ調停の対象となっている米国内のクレームや残りのクレームの一部または全部を解決するのに要すると予想される費用に充当されます。

第3四半期中核1株当たり利益（EPS）は1.50ドルで、2009年の第3四半期の1.68ドルに比べ、中核営業利益と同様の傾向を示し、CERベースで10%減でした。報告ベースの営業利益に影響を及ぼした同様の事業再構築費と法務関連引当金の結果として、第3四半期の報告ベースのEPSは1.08ドルで、前年度比26%減少しました。

9カ月

9カ月の売上はCERベースで2%増、実質ベースでは為替変動のプラスの影響を受けて3%増でした。米国以外の市場における売上は8%増で、この売上増加分の半分以上は9カ月で16%増加した新興市場が占めました。西ヨーロッパの売上は4%増でした。米国以外の既成市場の売上は7%増でした。米国市場の売上は、主に第3四半期の業績に影響を与えた要因によって5%減少しました。

9カ月中核営業利益はCERベースで変動はなく、107億3,800万ドルでした。研究開発費の減少および売上の増加は、その他収入の減少や第3四半期の項で上述した売上総利益の大幅減により概ね相殺されました。報告ベースの営業利益は3%減少しました。

9カ月中核1株当たり利益（EPS）は7%増の5.32ドルで、2010年第1四半期の税準備金への調整（0.13ドル）のプラス影響と正味支払利息の減少を反映しています。報告ベースのEPSは6%増の4.45ドルでした。

生産性の向上

すでに発表された事業再構築プログラムに関しては順調に推移しています。第3四半期には2億1,200万ドルが事業再構築費として計上されましたが、9カ月の合計は7億7,700万ドルでした。

生産性向上プログラムの第1段階は現時点でほぼ完了しています。プログラムを開始してから、2010年の年末までに年間24億ドルの経費削減を達成するという目標に向けて順調に進んでいます。2014年の年末までに19億ドルの年間経費削減の実現を目指し、2010年から2014年までの期間で第2段階を終了する予定です。2010年から2013年の事業再構築費は20億ドルと予想され、うち約60%を2010年に、残りの大部分を2011年までに計上する予定です。2010年度の現在までの支出および経費削減は以上の予定額に概ね沿っています。

配当と自社株買い

現在までにアストラゼネカは2010年の当初の目標20億ドルに向け12億9,700万ドルの自社株買い戻しを行いました。グループ全体で、9カ月で3,610万株を総額17億4,200万ドルで買い戻す一方、株式オプション行使の対象として1,070万株を総額4億4,500万ドルで発行しました。2010年9月30日現在の総発行株式数は、14億2,500万株でした。

研究開発の最新情報

当社研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2010年上半期業績に関連して提供されており、当社ウェブサイト www.astrazeneca.com の投資家向け情報のページでご覧になれます。

前回更新以降の主な進展は下記を含みます。

Brilinta/Brilique

9月24日、アストラゼネカは医薬品委員会（CHMP）が成人急性冠症候群（ACS）患者におけるアテローム血栓症予防を適応とする *Brilique* (ticagrelor) の販売承認申請を支持したと発表しました。委員会による肯定的な意見は、現在欧州委員会による審査に用いられています。欧州連合（EU）で使用される新薬承認の是非を決定する欧州委員会は、通常 CHMP が意見書を発出してから数か月以内に承認の判断を行います。

9月15日、当社は米国食品医薬品局（FDA）が *Brilinta* (ticagrelor) の新薬承認申請（NDA）の審査期間を延長したと発表しました。これに従い、FDA は処方薬ユーザー・フィー法の適用日を2010年9月16日から2010年12月16日に延期しました。アストラゼネカは、ticagrelor の NDA 審査に関し FDA と緊密な協働を継続します。

2010年10月1日、アストラゼネカはブリガム・アンド・ウィメンズ病院を拠点とした心筋梗塞における血栓（TIMI）スタディ・グループと共同で ticagrelor の大規模国際臨床試験を開始すると発表しました。PEGASUS-TIMI 54 Study は、2010年第4四半期中に患者登録を行う予定です。

ACS 患者に対する現在の治療ガイドラインでは、イベント後最長 12 か月の 2 剤抗血小板療法に続き、アスピリン単独の長期療法が推奨されています。

PEGASUS-TIMI 54 試験では、登録の 1~3 年前から心臓発作を継続している患者における ticagrelor の長期有効性および安全性を検討します。このような患者では、別の心血管系イベントのリスクが大幅に上昇します。本試験の目的は、アスピリンの単独療法との比較において ticagrelor とアスピリンの併用療法がその後の心血管系イベントのリスクを低減させるかどうかを解明することです。

Vimovo

10月11日、アストラゼネカおよび POZEN 社は、*Vimovo* (ナプロキセン/エソメプラゾールマグネシウム水和物) 500/20mg 遅延放出型錠剤につき、欧州連合（EU）の 23 カ国における承認に関する肯定的な同意を受理し、重要なステップをクリアしたことを発表しました。これは、分散承認審査方式の参照加盟国であるオランダの保健局の評価に関係加盟国である 22 カ国すべてが同意したことを受けたものです。医薬品の統一製品概要にも結果を示します。各加盟国は薬価、保険償還および国家の承認取得に向けて手続きを取ります。

POZEN 社とアストラゼネカが共同開発中の *Vimovo* は、ヨーロッパで NSAID に伴う胃・十二指腸潰瘍発症リスクがある患者で低用量のナプロキセンまたは他の NSAID による治療では不十分とみなされる場合の変形性関節炎、関節リウマチおよび強直性脊椎炎の治療を適応としています。

Lesogaberan (AZD3355)

胃食道逆流症の治療について臨床試験中の GABA_B 作動薬であり胃酸逆流抑制剤である lesogaberan (AZD3355) の第 II 相用量設定試験の結果に基づき、アストラゼネカは、本化合物の開発を中止することを決定しました。

Lesogaberan は、メルク社との提携打ち切りに関する取決め対象のパイプライン資産でした（注6参照）。今後の開発を中止したことで本プロジェクトに関連する無形資産の評価減が発生し、第3四半期の売上原価に1億2,800万ドル計上されました。

ジボテンタン

9月27日、アストラゼネカは転移巣を有する去勢療法抵抗性前立腺がん（CRPC）患者を対象にジボテンタンを評価した試験において、主要評価項目である全生存期間に有意な改善が示されなかったと発表しました。

Study14 は、転移巣を有する CRPC 患者 594 例を対象に、標準療法にジボテンタン 10mg を追加した際の有効性を評価する第 III 相無作為化プラセボ対照臨床試験でした。本試験におけるジボテンタンの安全性および忍容性プロファイルは過去の試験と一致していました。

本試験結果に基づき、アストラゼネカは現時点においては規制当局へのジボテンタンの承認申請は予定していません。ジボテンタンを評価する ENTHUSE 臨床試験プログラムでは、本試験と異なる背景の CRPC 患者を対象とした他の 2 つの臨床試験が進行中です。Study14 の全結果は、2011 年に公表予定です。

バンデタニブ

9 月 23 日、アストラゼネカは米国 FDA および欧州医薬品庁 (EMA) が、進行甲状腺髄様がん (MTC) 治療薬バンデタニブに関する承認申請の審査を受け入れたと発表しました。また、FDA は本申請を優先審査することを決定し、処方箋薬ユーザーフィー法 (PDUFA) のアクションデート (承認の可否を決定する日) を 2011 年 1 月 7 日に設定しました。FDA の腫瘍薬諮問委員会は、2010 年 12 月 2 日の会議で本申請の協議を行う予定です。

これらの申請は、進行 MTC を有する患者におけるプラセボを対照としたバンデタニブの安全性と有効性を評価した ZETA 試験結果に基づき行われました。MTC は全甲状腺がんの 5% を占めます。米国腫瘍協会は、2010 年に 44,000 人以上が新たに甲状腺がんと診断されたと推測しています。欧州全域では、年間 50,000 人超が甲状腺がんと診断されています。

アストラゼネカは、バンデタニブの商品名について規制当局と協議しています。

Dapagliflozin

開発中の Dapagliflozin は、ファーストインクラスになりえるナトリウム・グルコース共輸送体 (SGLT2) 阻害剤であり、アストラゼネカとブリistol・マイヤーズスクイブ社が共同開発を進めており、現在 2 型糖尿病成人患者を対象に 1 日 1 回経口投与の第 III 相臨床試験を行っています。SGLT2 阻害剤はインスリン非依存性の作用機序で、グルコースおよび付随するカロリーの尿中への排泄を促進し、血糖値を低下させます。

2010年9月にストックホルムで開催された欧州糖尿病学会において、アストラゼネカおよびブリistol・マイヤーズスクイブ社はdapagliflozinに関する2つの第III相臨床試験のデータを発表しました。この結果、dapagliflozinをグリメピリドに追加投与することにより、グリメピリド単剤投与に比べグリコヘモグロビン値 (HbA1c) を改善されることが24週間試験のデータで示されました。また、2型糖尿病成人患者にdapagliflozinとメトホルミンを併用投与した場合、glipizideとメトホルミンの併用と同様のHbA1cの改善が見られたことが52週間試験のデータから明らかになりました。さらに、glipizideで報告された体重増加とは対比的に、dapagliflozinとメトホルミンの併用投与により体重が減少し、低血糖イベントを呈した患者数が低下したことがデータから明らかになりました。

新たなFDAガイドラインに沿ったdapagliflozinの第III相開発プログラムからの心血管 (CV) イベントのデータの分析は最近終了しました。本分析に基づく、このデータはCVリスクの評価に関してFDAが定めたガイドラインを満たすものと当社とブリistol・マイヤーズスクイブ社は考えており、申請の根拠として十分であると思われる。したがって、当社は世界的開発計画を進め、2010年末または2011年初頭までに米国および欧州規制当局への申請を目指しています。

ONGLYZA™とメトホルミンの定量配合剤

2010年8月に欧州医薬品庁は、2型糖尿病を有する成人患者の治療薬としてのONGLYZA™とメトホルミン除放射性錠剤の定量配合剤の販売承認申請を承認しました。

アストラゼネカとブリistol・マイヤーズスクイブ社は2010年3月に、FDAがONGLYZA™とメトホルミン除放射性錠剤の定量配合剤の承認申請の審査を受け入れたと発表しました。PDUFA審査日は、2010年10月29日です。

セロクエル XR

9 月 11 日、アストラゼネカは欧州委員会が抗うつ剤の単剤療法に対して反応が不十分であった大うつ病性障害 (MDD) 患者の大うつ病エピソード用追加療法としての 1 日 1 回セロクエル XR (クエチアピンフマル酸塩) 徐放性錠剤の承認に対し肯定的な決定を下したと発表しました。

今年の 4 月に欧州連合の CHMP が出した肯定的な勧告を受けてこの決定が下されました。アストラゼネカは、当初の相互認証手続きに参加していた加盟国 17 カ国での承認を得ました。他の加盟国については、スケジュールが異なります。

当社は、全般性不安障害に対するセロクエル XR の相互認証手続きによる承認申請を取り下げました。

Motavizumab

8月30日、アストラゼネカはバイオ医薬品部門の MedImmune 社が FDA から motavizumab に関する第二次審査完了報告通知 (CRL) を受領したと発表しました。当社が motavizumab の登録を進めるために必要な以下の要件が第二次 CRL に記載されていました。

- FDAは、予防の適応が必要とされる母集団での十分なリスク／ベネフィットプロファイルを裏付ける追加臨床試験のエビデンスを要求しています。

当社は、引き続き motavizumab の臨床的有用性を確信しており、今後 CRL に関する検討を完全に行い、FDA と建設的な話し合いを続けるとともに適宜次のステップに関する決定を下します。

既に開示したとおり、当社は、CRL の分析を終えた後に評価減の対象となりうる motavizumab の無形資産 4 億 4,500 万ドルを有しています。いかなる評価減も中核利益からは除外されます。

Fluenz

10月22日、アストラゼネカは 欧州連合 CHMP が季節性インフルエンザの予防を目的とした弱毒性インフルエンザワクチン (LAIV) の鼻腔スプレーである *Fluenz* 社のインフルエンザワクチン (弱毒性、点鼻) の販売承認申請に関して肯定的な意見を述べたことを発表しました。また CHMP は、欧州での本製品の販売対象を生後 24 か月から 18 歳未満にすべきであるとの意見を述べています。

CHMPの肯定的な意見を受け、現在欧州連合 (EU) で最終的な検討が行われています。通常、EUはCHMPの意見が出されてから数カ月以内にEUにおける新薬候補の承認の是非について最終的な判断を下します。

Fostamatinib

2010年9月29日、当社は新規の Syk 阻害剤である fostamatinib の第 III 相臨床開発プログラムに最初の患者を登録したことを発表しました。Methotrexate (MTX)を含む疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARD) に対し不十分な反応を示す関節リウマチ (RA) 患者の治療薬として fostamatinib を検討するために通称 OSKIRA (関節リウマチにおける経口 Syk 阻害剤) の第 III 相プログラムを計画しました。

OSKIRA 臨床試験プログラムには、fostamatinib の安全性および有効性を評価する主要試験である第 III 相試験 3 試験、MTX を含む DMARD に対し不十分な反応を示す患者における fostamatinib の安全性および有効性の 12 か月試験、以前抗 TNF 療法に不十分な反応を示した患者における fostamatinib の安全性および有効性の 6 か月試験が含まれます。また、fostamatinib プログラムには、第 II 相および第 III 相プログラム中に登録された 2,000 例の患者を組み入れた長期安全性延長試験も含まれます。

今後の見通し

前年同期比、当第3四半期は売上や中核利益が減少しました。米国以外の市場での売上は良好に伸長しましたが、後発品の競合による予期された悪影響およびH1N1インフルエンザワクチンによる売上がなかったことによる米国の売上減を相殺することはできませんでした。また、前年同期には引当金の繰戻しにより総営業利益率が改善されましたが、当第3四半期の総営業利益率は無形資産の評価減により悪影響を受けました。

当社は、第4四半期も売上および中核EPSが過去の業績との比較における悪化を予想しています。しかしながら、9カ月累計の業績および第4四半期の見通しに基づくと、本年度の売上は、CERベースで2009年度と概ね同じ水準であると思われます。当社が使用する主要通貨の2010年1月時点の平均為替レートに基づくと、本年度通年の中核EPSの目標は過去の6.35~6.65ドルよりも狭いレンジの6.50~6.65ドルです。

この目標値には、2010年の下半期の平均為替レートが当社の利益予想の前提である2010年1月時点の平均レートから大幅に変動する可能性は考慮されていません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上や利益が受ける予想影響度は、2009年通年業績発表とともに示されており、当社のウェブサイトでも閲覧可能です。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

消化器

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
Nexium	1,242	1,243	+2	3,738	3,681	-
Losec/Prilosec (オメプラール)	233	240	-4	743	696	+3
合計	1,512	1,517	+1	4,588	4,458	+1

- Nexiumの米国の第3四半期の売上は、前年同期比1%減の6億8,200万ドルでした。調剤数量のNexiumの使用シェアは2009年12月と比較して2010年9月はわずか0.3%の減少にとどまったにもかかわらず、調剤小売錠数量は約4%減でした。Nexiumの平均実勢小売価格は、前年同期と比較して約4%増加しました。
- Nexiumの米国の9カ月の売上は、4%減の20億3,000万ドルでした。
- Nexiumの米国以外の市場における第3四半期の売上は、5%増の5億6,000万ドルでした。新興国の売上は、中国の47%増を含め16%増加しました。米国以外の既成市場（ROW）の売上は、カナダでの19%の伸長が寄与し5%増でした。西ヨーロッパ諸国での売上は1%増でした。ドイツではエソメプラゾールの後発品が2010年9月と10月に数製品上市されました。それを受けて、2010年10月15日に、アストラゼネカはこれらの企業に製品をドイツで販売するのを控えさせる仮差し止め命令を申請しました。
- Nexiumの米国以外の市場の売上は、9カ月7%増の17億800万ドルでした。
- Prilosecの米国での売上は、第3四半期は56%減、9カ月で24%減でした。米国での9カ月売上は3,800万ドルでした。
- Losecの米国・西ヨーロッパ以外での売上は、CERベースの第3四半期では変動なく2億2,500万ドルでした。中国市場での売上は23%増でした。9カ月の売上は5%増の7億500万ドルでした。

循環器

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
Crestor	1,374	1,147	+20	4,104	3,245	+23
セロケン/Toprol-XL	273	414	-34	957	1,119	-16
Atacand	359	370	+1	1,108	1,049	+4
Plendil	63	60	+5	192	181	+4
ゼストリル	35	47	-21	117	141	-17
ONGLYZA™	19	9	+111	37	9	n/m
合計	2,249	2,191	+4	6,916	6,149	+10

- Crestorの米国の売上は、第3四半期、前年度比20%増加の6億2,600万ドルでした。Crestorの処方量合計は12%増えて、米国のスタチン市場における伸び率の5倍近くになりました。米国における総処方量におけるCrestorのシェアは2010年9月に12%に達しました。Crestorのダイナミックシェア（新規および切り替え患者）は現在、シンバスチタンの後発品に次いで2位の15.4%となっています。
- Crestorの米国における9カ月の売上は22%増の18億8,800万ドルでした。
- Crestorの米国以外の第3四半期の売上は21%増加し、スタチン市場の良好な伸長の4分の3である7億4,800万ドルでした。西ヨーロッパの売上は、フランスやイタリアの良好な伸長とスペインでの上市後の堅調な売上推移により16%増加しました。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の売上はカナダ、日本とオーストラリアの堅調な伸長により25%増加しました。新興市場の売上は23%増でした。
- Crestorの米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の9カ月の売上は25%増の22億1,600万ドルでした。

- 自社後発品の売上を含む Toprol-XL 製品の米国の売上は第3四半期に49%減の1億4,900万ドルでした。5月初旬に Watson社の100mgと200mg剤型が、8月にWockhardt社の後発品が上市されたことによる競争激化を反映して、フランチャイズの総処方量は、33%減少しました。自社後発品の在庫を補充し、完全供給に戻しましたが、これを含む工場出荷数量も前年同期比で下がっています。今後参入してくる後発品が米国市場で承認される時期を確実に予測するのが難しい状況が続いています。
- Toprol-XLフランチャイズの米国における9カ月の売上は、26%減の5億7,100万ドルでした。
- Selokenの米国以外の市場での売上は、第3四半期で3%増、9カ月で6%増でした。新興市場の売上は、第3四半期で8%増、9カ月で14%増でした。
- Atacandの米国での売上は、第3四半期の26%減の5,200万ドル、9カ月で16%減でした。
- Atacandの米国以外の市場での第3四半期の売上は、7%増の3億700万ドルでした。累計では主に9カ月で売上21%増を計上した新興市場での伸長により8%増加しました。
- ブリストル・マイヤーズスクイブ社とのONGLYZA™の提携による収入は、第3四半期に1,900万ドル、9カ月に3,700万ドルでした。米国内での第3四半期の提携収入は1,600万ドルでした。米国DPP4市場の総処方数のうちONGLYZA™のシェアは、10月15日週末には9.1%に達しました。DPP治療を新たに開始する患者におけるONGLYZA™のシェアは24.5%でした。

呼吸器および炎症

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
シムビコート	640	562	+19	2,005	1,628	+22
パルミコート	180	320	-43	639	923	-32
Rhinocort	55	63	-13	175	199	-14
Oxis	15	16	-	48	44	+7
アコレート	17	17	-	50	49	-
合計	936	1,009	-4	3,013	2,941	+1

- シムビコートの米国での第3四半期の売上は、前年同期比で40%増の1億7,500万ドルでした。定量配合剤の新規処方量に占めるシムビコートのシェアは2010年9月に19.3%に達し、同期でさらに0.4%増加しました。配合剤の新規患者での市場シェアは現在26%です。
- シムビコートの米国の9カ月売上は、58%増の5億2,900万ドルでした。
- シムビコートの米国以外の市場における第3四半期の売上は、前年同期比の13%増の4億6,500万ドルでした。米国・西ヨーロッパ以外の既成市場での売上は、現在シェアの20%以上を占める日本での上市を反映して56%増加しました。新興市場の売上は26%増加しました。西ヨーロッパの売上は4%増でした。
- シムビコートの米国・西ヨーロッパ以外の市場での上半期の売上は、13%増の14億7,600万ドルでした。
- パルミコートの米国の第3四半期の売上は、2009年12月にTeva社のブデソニド吸入用懸濁剤（BIS）後発品の上市の結果、71%減の6,100万ドルでした。処方用BIS処方数のうちパルミコート吸入液のシェアは、第3四半期で17%でした。
- パルミコートの米国での9カ月の売上は、59%減の2億3,700万ドルでした。
- パルミコートの米国・西ヨーロッパ以外の9カ月の売上は、新興市場での36%増にけん引され12%増の4億200万ドルでした。

オンコロジー

	第3四半期		CER (%)	9か月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
アリミデックス	284	476	-38	1,234	1,422	-14
カソデックス	137	174	-23	431	655	-36
ゾラデックス	268	282	-5	813	786	-1
イレッサ	102	75	+33	278	218	+24
Faslodex	84	67	+31	234	190	+24
ノルバデックス	21	22	-9	64	64	-5
合計	899	1,099	-18	3,063	3,349	-10

- 多くの後発品が2010年6月末に承認を受けたため、アリミデックスの米国の第3四半期の売上は80%減の4,300万ドルでした。アリミデックスの総処方量は今四半期で81%減でした。
- アリミデックスの米国の9カ月の売上は、28%減の4億7,200万ドルでした。
- アリミデックスの米国以外の第3四半期の売上は、4%減の2億4,100万ドルでした。EU小児規制条件下で、フランス、イタリアおよび英国を含むEU加盟国12カ国で提出した補足保護証明（SPC）延長が認められ2010年8月から2011年2月まで市場独占権が延長されました。米国・西ヨーロッパ以外の9カ月の売上は2%減の7億6,200万ドルでした。
- カソデックスの米国での第3四半期の売上は、昨年第3四半期に始まった後発品との競合の結果、79%減の300万ドルでした。9カ月の売上は89%減の1,400万ドルでした。
- カソデックスの米国以外の市場での売上は、主に西ヨーロッパおよび日本での後発品の浸食により、18%減の1億3,400万ドルでした。9カ月の売上は23%減の4億1,700万ドルでした。
- イレッサの9カ月の売上は、西ヨーロッパの売上2,900万ドルを含め24%増の2億7,800万ドルでした。日本の売上は7%増加しました。新興市場の売上は、中国の22%増を含め19%増でした。
- Faslodexの9カ月の売上は、米国で17%増の9,800万ドル、米国以外で29%伸長の1億3,600万ドルでした。

ニューロサイエンス

	第3四半期		CER (%)	9か月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
セロクエル	1,303	1,231	+7	3,962	3,605	+9
Seroquel IR	1,024	1,039	-1	3,124	3,130	-1
Seroquel XR	279	192	+50	838	475	+76
ゾーミッグ	103	111	-5	318	319	-1
Vimovo	5	-	n/m	5	-	n/m
合計	1,644	1,578	+5	4,998	4,601	+8

- セロクエル・フランチャイズの米国での第3四半期の売上は、10%増の9億3,600万ドルでした。セロクエル・フランチャイズの総処方量は、第3四半期では0.6%増にとどまりました。セロクエルXRの総処方量は73%増となり、現在米国におけるフランチャイズの総処方量の15%を占めます。セロクエル・フランチャイズの市場シェアは、2010年9月時点で市場トップの38.0%（2010年6月より0.17%減）でした。
- セロクエルの米国における9カ月の売上は、前年同期比の11%増の28億1,400万ドルでした。
- セロクエル・フランチャイズの米国以外の第3四半期の売上は、1%増の3億6,700万ドルでした。セロクエルXRの売上は、35%増加し、米国以外のフランチャイズ売上の33.5%を占めています。セロクエル・フランチャイズの米国以外の既成市場の売上は4%減でした。これは、2008年に独占権を失って以降、速放性薬剤の後発品の浸食が安定化し、日本でのマーケティング・パートナーへの出荷量の減少がカナダでのある程度の伸長を上回ったのが原因です。セロクエル・フランチャイズの売上は、新興市場で10%増でした。西ヨーロッパでの売上は横ばいでした。
- セロクエルの米国以外の市場での9カ月の売上は、6%増の11億4,800万ドルでした。

- Vimovoの米国市場における売上は、2010年9月に開始した販売促進に先立つ流通在庫を反映して500万ドルでした。

感染症・その他

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
Synagis	139	82	+70	641	681	-6
Merrem	204	221	-5	634	636	-3
FluMist	120	92	+30	123	94	+31
非季節性インフルエンザ ワクチン	-	152	n/m	39	152	-74
合計	493	582	-14	1,520	1,676	-10

- Synagisの米国の9カ月の売上は、29%減の3億7,000万ドルで、その大半が上半期の乳幼児気道感染症シーズンに計上されましたが、COIDが発表した新ガイドラインによりマイナスの影響を受けました。Synagisの米国以外の売上は67%増の2億7,100万ドルでした。これは実際の売上傾向ではなく、当社の国際販売代理店アボット社への出荷時期の差異を反映しています。
- FluMistの売上は、前年同期比30%増の1億2,000万ドルでした。
- 第3四半期は新型インフルエンザA (H1N1) に対する弱毒性生ワクチン (LAIV) に関する米国政府の発注による売上はありませんでした。現在、このA型 (H1N1) は従来の季節性インフルエンザに組み入れられています。このプロジェクトは、全部または一部がHHS (保健社会福祉省) /ASPR(Assistant Secretary for Preparedness and Response)/BARDA(The Biomedical Advanced Research and Development Authority)からの連邦補助金によって費用負担されており、その契約番号は、HHS01002009000021です。

地域別売上

	第3四半期		CER (%)	9カ月		CER (%)
	2010 100万ドル	2009 100万ドル		2010 100万ドル	2009 100万ドル	
米国	3,179	3,659	-13	10,273	10,831	-5
西ヨーロッパ	2,150	2,286	+3	6,821	6,696	+4
ROWの既成市場*	1,262	1,109	+5	3,701	3,146	+7
ROWの新興市場	1,307	1,146	+14	3,857	3,186	+16

* ROW (米国と西ヨーロッパ以外の地域) の既成市場を構成するのはカナダ、日本、オーストラリアおよびニュージーランドです。

- 米国の売上は、アリミデックス、Toprol-XLおよびパルミコート吸入液に対する後発品の競合および2009年第3四半期の業績に寄与したH1N1新型インフルエンザワクチンの売上が今第3四半期にはなかったため、13%減少しました。クレストール、セロクエルXRおよびシムビコートについては堅調に伸長しました。
- 西ヨーロッパの売上は、数量の好調な伸長が政府介入に関連した価格下落を下回ったため、第3四半期では3%増でした。数量の伸びは、クレストール、セロクエルXRおよびシムビコートが主なけん引役となっていました。
- 米国・西ヨーロッパ以外の既成市場の第3四半期の売上は、クレストールがけん引したカナダの19%の増加により、5%増でした。日本の売上は、クレストールおよびシムビコートが良好な伸長を支えたものの、2年に1回の薬価改定のために1%増にとどまりました。
- 米国・西ヨーロッパ以外の新興市場の第3四半期の売上は14%増でした。トルコを中心とするヨーロッパ新興国における非常に堅調な数量の伸びは、価格下落により7%の売上増にとどまりました。中国の売上はプロトンポンプ阻害剤 (PPI) フランチャイズ、オンコロジー製品および循環器製品の良好な伸長により、27%増加しました。他の米国・西ヨーロッパ以外の新興市場の売上は、Atacand、Nexiumおよびクレストールがけん引し17%増加しました。

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。当社の報告ベースの財務情報に加えて提示するこうした指標はGAAP（一般会計原則）とは異なる指標であり、当社グループの進行中のビジネスの基礎的な財務実績やそれにプラスとなるビジネス上の重要な要素をよりよく理解していただく上で有益だと当社経営陣は考えています。中核ベースの財務指標では、当社のグローバルな事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、2007年のMedImmune社買収に関連する重要な無形資産の償却および評価減、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取決めやその他の特殊項目といったいくつかの重要項目を除外するよう調整されています。これら調整の性質に関する詳細は、当社の年次報告書および書式20-F 2009年インフォメーションの37頁に示されています。

第3四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万ドル単位。

	報告ベース 2010	事業再構築 費用	メルク社 および MedImmune 社償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	中核 2010	中核 2009	前年同期 比 %	CER %
売上高	7,898	-	-	-	-	7,898	8,200	(4)	(2)
売上原価	(1,524)	19	-	-	-	(1,505)	(1,239)		
売上総利益	6,374	19	-	-	-	6,393	6,961	(8)	(7)
売上比%	80.7%					80.9%	84.9%	-4.0	-4.2
物流費	(82)	-	-	-	-	(82)	(73)	12	12
売上比%	1.0%					1.0%	0.9%	-0.1	-0.1
研究開発費	(1,077)	91	-	-	-	(986)	(1,049)	(6)	(5)
売上比%	13.6%					12.5%	12.8%	+0.3	+0.3
販売一般管理費	(3,011)	102	115	-	478	(2,316)	(2,373)	(2)	(1)
売上比%	38.1%					29.3%	28.9%	-0.4	-0.4
その他収入	202	-	20	-	-	222	143	54	56
売上比%	2.5%					2.8%	1.7%	+1.1	+1.0
営業利益	2,406	212	135	-	478	3,231	3,609	(10)	(10)
売上比%	30.5%					40.9%	44.0%	-3.1	-3.4
正味支払利息	(148)	-	-	-	-	(148)	(172)		
税引き前利益	2,258	212	135	-	478	3,083	3,437	(10)	(10)
支払税額	(704)	(66)	(28)	-	(124)	(922)	(993)		
税抜き後利益	1,554	146	107	-	354	2,161	2,444	(12)	(11)
非支配株主持分	(6)	-	-	-	-	(6)	(6)		
純利益	1,548	146	107	-	354	2,155	2,438	(12)	(11)
加重平均株式数	1,437	1,437	1,437	1,437	1,437	1,437	1,449		
1株当たり利益	1.08	0.10	0.08	-	0.24	1.50	1.68	(11)	(10)

売上高は2%減の78億9,800万ドルでした。

中核売上総利益率80.9%は、前年同期を4.2%下回りました。lesogaberan (AZD3355)に関する無形資産の評価減（1.6ポイント）および第三者供給契約に関する問題の解決によって生じた引当金の繰り戻しによる2009年のプラス影響（1.9ポイント）が、この減少の大部分を占めています。その他の減少分は、支払いライセンス料の増加（0.9ポイント）が、営業効率化（0.1ポイント）とメルク社への支払額の減少（0.1ポイント）を上回った部分です。

中核販売費および一般管理費23億1,600万ドルは前年同期比1%減でした。これは、新興市場への投資と最近上市したブランドへの投資が、既成市場全体にわたる業務の効率化による経費削減額を下回ったためです。

中核その他収入は2億2,200万ドルで、これにはパルミコート吸入液のTava社の後発品の売上から受けたロイヤリティが含まれ、前年同期比7,900万ドル増加しました。

中核研究開発費控除前営業利益率は、前述の売上総利益率の減少がその他の収入の増加を上回ったため、3.7%ポイント減の53.4%でした。

中核研究開発費は9億8,600万ドルで前年同期比5%減でした。これは、バイオ医薬品事業への継続投資を低分子ポートフォリオ全体における活動の減少と効率化による経費減が上回ったためです。

中核営業利益は32億3,100万ドルで、10%減でした。前年と比較して、ドルはユーロに対して10%強くなり（売上と費用が減少）、スウェーデン・クローナに対しては変動なく（費用に影響なし）、英ポンドに対しては6%強くなりました（費用が減少）。第三者供給契約による問題の解決によって生じた引当金の解除によりプラスの影響を受けた前年同期と比較すると、今第3四半期は無形資産の評価減の影響を受け、中核営業利益率が3.4ポイント減少し、40.9%でした。

第3四半期中核EPSは、10%減の1.50ドルでしたが、これは中核営業利益と同様の結果でした。

報告ベースの営業利益は、24%減の24億600万ドルでした。報告ベースのEPSは26%減の1.08ドルでした。これは、事業再構築費および2010年第3四半期に含まれている現在進行中のセロクエルの製造物責任訴訟に関連する計4億7,300万ドルの法務準備金による影響を受けた減少です。

9カ月

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株数も100万ドル単位。

	報告ベース 2010	事業再構築 費用	メルク社 および MedImmune 社償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	中核 2010	中核 2009	前年同期 比 %	CER %
売上高	24,652	-	-	-	-	24,652	23,859	3	2
売上原価	(4,630)	110	-	-	-	(4,520)	(3,971)		
売上総利益	20,022	110	-	-	-	20,132	19,888	1	-
売上比%	81.2%					81.7%	83.4%	-1.7	-1.8
物流費	(248)	-	-	-	-	(248)	(207)	19	16
売上比%	1.0%					1.0%	0.9%	-0.1	-0.1
研究開発費	(3,388)	463	-	-	-	(2,925)	(3,064)	(5)	(6)
売上比%	13.7%					11.9%	12.9%	+1.0	+1.0
販売一般管理費	(7,923)	204	327	-	493	(6,899)	(6,825)	1	-
売上比%	32.1%					28.0%	28.6%	+0.6	+0.6
その他収入	620	-	58	-	-	678	785	(14)	(14)
売上比%	2.5%					2.8%	3.3%	-0.5	-0.5
営業利益	9,083	777	385	-	493	10,738	10,577	2	-
売上比%	36.9%					43.6%	44.3%	-0.7	-0.8
正味支払利息	(389)	-	-	-	-	(389)	(575)		
税引き前利益	8,694	777	385	-	493	10,349	10,002	3	2
支払税額	(2,245)	(201)	(74)	-	(127)	(2,647)	(2,892)		
税抜き後利益	6,449	576	311	-	366	7,702	7,110	8	6
非支配株主持分	(17)	-	-	-	-	(17)	(14)		
純利益	6,432	576	311	-	366	7,685	7,096	8	6
加重平均株式数	1,445	1,445	1,445	1,445	1,445	1,445	1,448		
1株当たり利益	4.45	0.40	0.22	-	0.25	5.32	4.90	9	7

売上高は2%増の246億5,200万ドルでした。

中核売上総利益率81.7%は、前年同期比1.8ポイント減でした。メルク社への支払額の減少（0.2ポイント）を第3四半期の無形資産の評価減（0.5ポイント）、第三者供給契約による問題の解決によって生じた引当金の繰戻しによる2009年のプラス影響（0.7ポイント）、支払いライセンス料の増加（0.4ポイント）、地域およびプロダクトミックス要因（0.4ポイント）を上回ったためです。

中核販売費および一般管理費68億9,900万ドルは、CERベースで前年同期比では横ばいでした。これは、新興市場および最近上市したブランドへの投資に加え法務関連費用の増加が、既成市場全体にわたる業務の効率化によってほぼ相殺されたためです。

中核その他収入は6億7,800万ドルで、前年同期比1億700万ドル減少しました。これは、主に前年度の北欧のOTC製品およびAbraxane®の売却益が、パルミコート吸入液のテバ社の後発品の売上から受けたロイヤリティを上回ったためです。

中核研究開発費控除前営業利益率は、売上総利益率が低下し、その他収入に計上された売却益が売上増や販売費および一般管理費の効率化を上回り前年同期比1.8ポイント減の55.5%でした。

中核研究開発費は29億2,500万ドルで前年度比6%減低下でした。これは、バイオ医薬品事業への投資増を、無形

資産の評価減およびプロジェクト費用の減少および効率化が上回ったためです。プロジェクト費用の減少は、いくつかの後期開発プロジェクトが試験を終了したことによるものです。

中核営業利益はCERベースで横ばいの107億3,800万ドルでした。研究開発費の減少と業務効率化が、第3四半期の総営業利益を低下させた項目を下回り、中核営業利益率は0.8ポイント減の43.6%でした。

9カ月の中核EPSは7%増の5.32ドルでしたが、これは主に第1四半期に未払法人税の調整（0.13ドル）を行ったことで正味支払利息が減少し、実効税率が低下したためです。

報告ベースの営業利益は、3%減の90億8,300万ドルでした。報告ベースのEPSは6%増の4.45ドルでした。これは、中核EPSが一部事業再構築費用の増加で相殺されたためです。

受取利息と支払利息

9月までの正味支払利息は、2009年の5億7,500万ドルに対し、3億8,900万ドルでした（2009年第3四半期1億7,200万ドルに対し、当期1億4,800万ドル）。2009年の9カ月は公正価値損失1億3,000万ドルだったのに対し、本年9月までの長期の公正価値利得600万ドル（2009年第3四半期3,000万ドルの損失に対して当期200万ドルの利得）を計上しました。これに加えて、債務残高の減少に伴う支払利息が減少し、キャッシュフローおよびキャッシュ相当の残高が増加しているためにそれらの運用益がやや上昇しました。

税金

第3四半期の実効税率は、31.2%（2009年30.0%）、9カ月では25.8%（2009年30.8%）です。前回開示したとおり、本実効税率は、長期にわたる移転価格問題および英国税務当局とのその他の未解決の英国税務案件を解決した旨の2月の発表後に行った過去の期間の調整によりプラスに働いています。この解決および他の移転価格問題における進展の効果は、第1四半期の収益に対して1億9,400万ドルの正味のプラス影響を与えました。当社は2010年の通年税率が約27%になると予想しています。

キャッシュフロー

9カ月の営業活動から生じるキャッシュフローは、2009年の同期は76億5,700万ドルであったのに対し、2010年9月30日までの9カ月で71億2,000万ドルでした。この5億3,700万ドルの下落は、主に米国の6億4,500万ドルのセロクエルの販売慣行に関する訴訟和解金支払いと平均卸売価格訴訟費用によるものですが、一部、堅調な売上増で相殺されました。

投資活動による正味キャッシュフローの9カ月の流出は、2009年5億7,200万ドルであったの対し18億8,800万ドルでした。13億1,600万ドルの増額は、14億7,200万ドルの社外化活動の増額分（メルク社への先買権支払額6億4,700万ドルを含む）によるものです。

株主への正味現金分配は、33億6,100万ドルの中間配当と12億9,700万ドルの自社株取得正味額により、（2009年の28億9,200万ドルから）46億5,800万ドルに増加しました。

資本と負債の構造

2010年9月30日現在、未決済負債残高（ローン、短期借入金および当座借越を含む）は、106億700万ドル（2009年12月31日現在：110億6,300万ドル）でした。本年9カ月の未決済負債残高の減少額4億5,600万ドルは、主として2008年7月発行の5億ユーロ18か月物債権の満期時の弁済によるものです。2010年9月30日現在の未決済負債残高のうち1年以内に返済期限が到来するのは13億7,600万ドル（2009年12月31日時点では19億2,600万ドル）です。未決済正味負債の13億700万ドルは、前述の2010年9月30日までの9カ月における正味キャッシュフローの流入の結果、2009年12月31日以降7億7,200万ドル増加しました。

カレンダー

2011年1月27日	2010年第4四半期・通年業績発表
2011年4月28日	2011年第1四半期業績発表
2011年4月28日	年次総会
2011年7月28日	2011年第2四半期・上半期業績発表
2011年10月27日	2011年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者

デビッド・ブレナン